

むささび

第51号

令和6年1月31日発行

JForest 北信州森林組合

〒383-0061 中野市大字壁田938-1

TEL:0269-38-0371 FAX:0269-23-5350

URL <https://www.jforest-kitashinshu.or.jp/>

E-mail musasaki@jforest-kitashinshu.or.jp



赤坂林産事業所の給油所屋根

関連記事6ページ



組合ホームページもあります。ぜひ、ご覧ください！
<https://www.jforest-kitashinshu.or.jp/>
スマートフォン対応となっています。

主な内容

- 年頭のごあいさつ…………… 2
- 長野県植樹祭が開催されました…………… 3
- 中野市の増資 出資1億円超え…………… 4
- いいやま環境フェア2023に出展…………… 4
- 高水林業協議会林業グループ部会視察…………… 5
- 赤坂林産事業所再整備が完了…………… 6
- 森林組合交流会に参加…………… 7
- 下高井農林高校インターンシップ…………… 7
- 役員安全パトロールを実施…………… 7
- 中野平中学校でアメリカハナミズキ植栽…………… 8
- 組織改編と人事異動がありました…………… 8

年頭のごあいさつ



北信州森林組合
代表理事組合長 山崎 明



皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年はウッドショックの反動で木材価格が対前年比3割安、諸物価高騰など林業経営にとっては厳しい環境下でしたが、職員の頑張りにより何とか新しい年を迎えることができました。本年も組合員の皆様のご理解ご支援の下で、様々な取組みにチャレンジしてまいりたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

新たな年に誓いを、正月には新しい年とともにすべてのものが生まれ変わるといいます。私たちの心の底辺には、新生という観念が棲みついているのかもしれませんが。新生という言葉は島崎藤村がよく使われています。飯山にもゆかりの作家ですが、遠い昔に思いを馳せながら、仏壇通りを歩くと深い感慨におそわれます。木を活かした仏壇の文化が、時代を超え今も残る街並み、多くの宗派を超えて寄り添う寺社。地域の木をあらためて活かしたい、そう思うのでした。

さて、最近の森林林業を取り巻く情勢ですが、昨年末に国の来年度予算案等が閣議決定され、「新たな花粉症対策」が始まる見込みとなりました。スギ林を伐採利用し、花粉の少ない樹種に植え替えていく取組みとなります。長野県の中でもスギが多くある長野県北部地域が対象地域となってきそうですので、今後、国の詳細な条件を踏まえ取組んでまいります。また、来年度税制改正大綱において、森林環境譲与税の配分見直しがあり、市町村に配分される際の比率が人工林面積の割合を50%から55%に引き上げ、人口割合を30%から25%に引き下げる方向となりました。人口の多い都市部に譲与税が偏重しているといった批判を踏まえての改正となります。当組合では、既に市町村のご理解のもと、譲与税を財源として境界明確化等に取り組んでおりますので、今後に向けては、この継続とともに、当組合が培ってきた強みといえる技術を活かせる新たな用途の提案も行って参りたいと考えております。一方、懸念材料もあります。本年4月から、働き方改革関連法による、「自動車運転業務における時間外労働時間の上限規制」が適用されることとなります。これにより、ドライバーの労働時間に罰則付きで上限が設けられますので、運賃の上昇やトラックドライバー不足などが懸念されます。当地域の木材も、遠く石川県の合板工場に運搬されている実態がありますので、今後、流通コスト削減に繋がるよう関係組合等と連携して取組むとともに、できるだけ近隣地域での活用策を見出していけるよう検討してまいりたいと考えております。

なお、この度の能登半島における大規模な地震により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔みを申し上げますとともに、被災されました多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。林業を取り巻く状況は依然厳しい状況下にあります。森林が負債といわれない社会を目指して、職員とともに取組んでまいります。森林にはまだ活かしきれていない可能性が潜んでいます。

組合発展のため頑張ってください

職員一同	監事	代表	業務委員	業務	総務委員	総務副委員長	業務委員	業務副委員長	総務委員	副組合長	代表理事組合長			
河野達浩	内田茂実	高坂亀美雄	森和樹	大井晴雄	山口賢剛	齊藤賢市	森勝	丸山扶美	関保典	小嶋秀治	丸山隆久	瀧澤俊實	小林俊幸	山崎明



長野県植樹祭が開催されました

飯山地区財産管理委員会が北信州林業賞を受賞

令和五年度長野県植樹祭が十月十四日（土）に、飯山市の戸狩温泉スキー場オリオンゲレンデで開催されました。今回の植樹祭は北信州森林祭と長野県植樹祭北信会場として開催されました。

コロナ禍で未開催となったり、実行委員会関係者だけの開催となったりしてきましたが、みどりの少年団や、一般参加もあり、元にもどりつつあるようです。式典の中で、北信州林業賞の表彰が行われ、飯山市の飯山地区財産管理委員会が受賞されました。

飯山地区財産管理委員会では、所有林のほか地域森林との境界明確化や森林整備に協力してきたことが高く評価されました。



開会式での表彰の様子



来賓・主催者と秋津小学校と木島小学校のみどりの少年団のみなさん

今回は元ゲレンデであった場所を整備したところへ、ブナ二百五十本、ミズナラ二百五十本が植栽されました。

現地では、来賓と主催者、そして秋津小学校と木島小学校のみどりの少年団により、記念標柱が建てられました。

子供達が壮年となる頃には、立派な広葉樹林に育って欲しいものです。

来年は、山ノ内町での開催が予定されていますので、ぜひ地元の方々の参加をお願いいたします。

森林組合としても、皆さんが森林・林業に直接関われる機会として、植樹祭を盛上げていきたいと考えています。



大勢が参加し久々ににぎやかな植樹祭となりました。

中野市の増資により出資が1億円を超えました

組合員別	出資額	出資比率
個人団体等組合員 (5,265名)	30,349,700円	26.26%
中野市	35,000,000円	30.28%
飯山市	30,328,200円	26.24%
山ノ内町	7,699,600円	6.66%
木島平村	5,000,000円	4.33%
野沢温泉村	7,200,000円	6.23%
合計	115,577,500円	

令和5年10月31日現在

森林組合	出資額
長野森林組合	331,362,500円
信州上小森林組合	211,726,500円
上伊那森林組合	198,096,800円
松本広域森林組合	121,641,400円

令和4年度末出資額

十月に中野市から増資が行われ、当組合の出資額が一億一千五百五十七万七千五百円となりました。税法上では資本額（出資額）が一億円以上となりますと大企業扱いとなります。この増資により、県内十八森林組合で五番目の出資規模となりました。

当組合の定款では、一組合員の出資上限を三千五百万円と規定しており、今回は出資上限まで増資いただきました。

中野市の他にも、組合員からの増資の申出が数件あります。増資により、たいへんありがたく思っております。

増資により、組合資本がより充実していますので、主伐・再造林に向けて、機械設備等の再構築を図りたいと考えております。

いよいよ環境フェア2023が展開しました

九月二十四日（日）に、飯山市文化交流館なちゅらにおいて「いよいよ環境フェア2023」が開催されました。当組合に事務局のある高水林業協議会が、会の活動PRと会員相互の交流活動を目的に出展しました。当組合から職員二名がスタッフとして参加し、来場者向けに「県産材のマイ箸づくり」の指導を行いました。また、なちゅら内のナカミチスペースにおいて、会の活動状況や長野県森林づくり県民税のPRなどを行いました。

当日は、多目的ホールにおいて長野県建築士会飯水支部による「住宅よろず相談」、大ホールでは、道祖神太鼓とフェアリーエンジェル歌唱ステージの後に、「豪雪地域の脱炭素の取組について」と題してパネルディスカッションが行われるなどしました。

建築関係の催しが多い中で、新潟県から森林・林業の取組みについてPRに来られており、トキの森の整備、阿賀悠久の森プロジェクト、苗場山麓竜神の森プロジェクト、南魚沼名水の森間伐プロジェクト、魚沼わくわくの森プロジェクト、十日町ふるさとの森づくりプロジェクトなどの紹介がありました。

飯山市においても、そうした地域の森林整備の取組を進めていただければと思います。

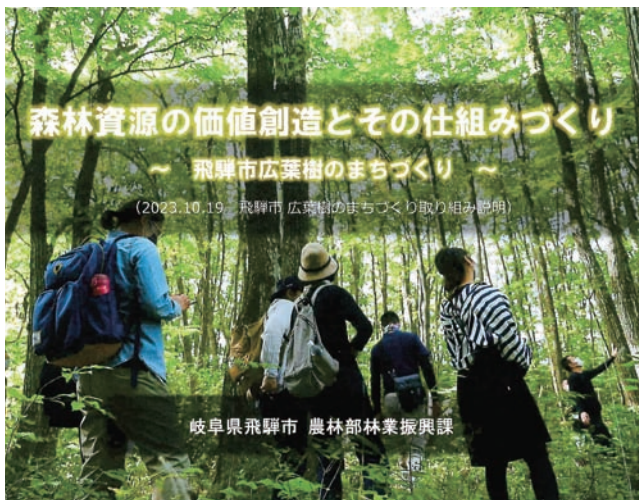


高水林業協議会林業グループ部会で先進地視察

●●●●● 広葉樹活用で先進地岐阜県飛騨市の取組を視察 ●●●●●

北信州地域には広葉樹林が多くあります。かつては、国有林からブナ材が多く生産されたり、民有林においても製紙用チップ材として広葉樹が多く生産されていました。また、キノコ原木としても多く生産されていました。当時、三十年生以上の伐出可能な広葉樹林の大半が伐採されたことと、平成十年代前半に製紙用チップ材の価格が大幅に下がったことから、広葉樹生産はまったくなくなりませんでした。

現在、残された広葉樹林は大きく成長しており、また伐採跡地も広葉樹林として再生しています。その面積は、管内に二万二千ヘクタールあり、普通林だけでも二万六千ヘクタールにおよびます。普通林の推定蓄積量は三百二十万トンになります。この広葉樹を価格の安いバイオマス発電燃料だけに使うのでは、たいへんもったいないことで、より利活用の調査するため、本協議会林業グループ部会で先進地岐阜県の視察を行いました。



飛騨産業本社工場の見学



本社工場倉庫に積まれた家具用木材

当組合からは六名が参加しました。飛騨市は94%が森林であり、その内68%が広葉樹林となっており、その広葉樹を利用したまちづくりを目指しているということです。そのため、広葉樹活用に先進的に取り組んでいる家具メーカーの飛騨産業(株)が協力して広葉樹の活用を行っていました。市では、通常は補助対象とならない過去に開設した作業路の改良に補助を出したり、市内産小径広葉樹の流通拠点を整備したりし、安定した広葉樹生産を目指していました。そして、素材生産業者、製材業者、木製品企画・開発、製造、販売等事業社、建築事業社等のステークホルダー17者と行政による広葉樹活用コンソーシアムを設立し、会員がそれぞれの役割を明確にし、会員相互の連携・協力により地域内のサ

プライチエーンの構築を目指しているということでした。市では、そのための必要な支援を行っているということです。

また、伐採では、大規模皆伐ではなく、環境負荷の少ない帯状伐採を行い、伐採後の育成については補助制度を創設するなどし、持続可能な資源利用の仕組みを目指しているということです。

飛騨産業では、家具用材の加工や、家具の製造工程を見学しました。本社には飛騨職人学舎という木工職人養成所があり、自社で職人養成をしているということでした。また、家具の修理工房もあるなどSDGsを波及していることが感じられました。

家具用材が不足傾向にあるため、全国から集めているということで、北信州の広葉樹林の可能性を感じました。

赤坂林産事業所再整備が完了

令和四年二月に、大雪により機材庫が倒壊し、機材庫再建と他の施設の再整備を進めてきました。春から始めた再整備でしたが、昨年十二月ようやく完了しました。

再整備では、長年の念願でした給油所の屋根が完成しました。夏場は現場で使う軽油を、携行缶に入れて持っていく予定です。重機が大型化していることで、消費量が多く、雨の日などは水の混入を防ぐために苦心していました。除雪事業では、小型タンクローリーに軽油を入れて、野沢温泉や木島平の除雪車への給油を行っています。降雪時には、タンク内への雪混入を防がなければならず、職員にとつて大きな負担となっていました。屋根ができたことで、職員の負担軽減となります。屋根には安全帯のフックを取付けるラインも二線設けましたので、タンクローリー荷台上での作業の危険防止となります。トラックの荷役作業安全対策が強化される中で、地下タンクに給油する際に必要となるものです。



屋根が完成した給油所



洗濯・物干し場

給油所上屋・物干し場

設計監理 ARI 建築空間計画 500,000 円(税別)
 施工 株式会社湯本工務店 12,500,000 円(税別)



ユニットハウスの事務所



計量器小屋とトイレ

腐食が進んで倒壊が心配されていた、事務所棟ログハウスは取壊しました。跡地にはチェーンソー防護衣を洗い干すための小屋を建設しました。さらに、残した便槽を利用して、簡易水洗トイレを設置しました。また、事務所棟にありましたトラックスケールの計量器も専用の小屋に設置しました。事務所棟で行っていた林産班のミーティング等は、機材庫内にユニットハウスを設置し行っています。以前の二倍ほどの広さがあり、イスだけでなく長机も入り、蛍光灯も増えて業務がしやすくなりました。

また、機材庫と一緒につぶれてしまった、重機の特定自主検査用の機材や資材が入れてありましたコンテナハウスも、新たに設置しましたので、機能的にはこれまで以上の内容となっています。

当組合の現場技能職員は、二十代の職員が八名おります。現場全体の三割となっており、若い人達が仕事しやすいように環境改善を行いました。最近では少子化が進み、新卒採用が難しくなっています。若い人達に選ばれる職場とならなければと考えています。

森林組合交流会に参加

令和二年から中止が続いていた、長野県森林組合交流会が十月十一日に開催されました。南佐久北部森林組合が当番組合ということで、佐久方面での開催となりました。当組合からは、組合長と参事が出席しました。

初日は、佐久市にある県立武道館を見学しました。県産カラマツが多く使われており、剣道場の床には北信のスギ材が使われているということでした。その後、ホテルで全体会議と懇親会が行われました。

二日目は、佐久穂町に移動して南佐久北部森林組合の皆伐現場での機械地拵えを見学しました。

傾斜地で重機が林内に入れない、尚且つグラブが届かない場所、人力ではなく重機により地拵えを行うための工夫について説明を受けました。鉄製のレーキを製作し、長尺丸太に取付けて引寄せるといふものです。引寄せると、直接丸太を掴まなくて、ワイヤーでつないだ短い丸太を掴んで引寄せるといふものです。試行錯誤の上で完成したものということで、当組合でも参考にしたいと思います。



機械地拵えの様子



鉄製のレーキ



一年生のドローン研修の様子

下高井農林高校 インターンシップ

今年も、北信州の森林と家をつなぐ会から委託され下高井農林高校生のインターンシップを行いました。

三年生には、校内でのチェーンソーアト製作を通しての、チェーンソー取扱研修と、間伐現場での高性能林業機械研修を行いました。今年は三年生が十一人と倍増しました。林業に関心をもってもらえることは、たいへん良いことだと考えています。また、一年生には、ドローン操縦の研修を行いました。三クラスで行うということで、組合のドローン三台を使って操縦を指導しました。最後には、生徒の操縦で記念撮影をするなど、良い経験となったのではと思います。

役員安全パトロールを実施

十月六日に、高山村の支障木伐採現場、山ノ内町の皆伐現場、木島平村の再造林現場で、役員安全パトロールを実施しました。

参加者からは、安全対策について良好な意見が多く出されました。また、十月ということで作業しやすい気候でしたが、炎天下での作業となった場合には、熱中症対策等が気になったという意見も出されました。

年々、夏場の作業の危険度が上がっているように感じています。草刈等の作業では機械化が待ったなしの状況であり、次年度での試験導入を計画しています。



山ノ内町の皆伐現場でのパトロール

中野平中学校でアメリカハナミズキを植栽

今年のSDGs 活動が完了しました。

6月の森林・林業を知るための座学から始まった活動ですが、木の伐採・製材・木工作と取組み、そして木工品販売の収益による植栽が行われ、活動が完了しました。

木は光合成により、大気中の二酸化炭素を吸収し育ちます。木は炭素の固まりですので、その木を木工品として使い続けることで、長期間炭素を固定することになります。木工品を焼却しない限り、大気中に二酸化炭素を戻すことはありません。そして、再び木を植えて育てることで、大気中の二酸化炭素を吸収し木が育ちます。これが、地球温暖化対策において森林吸収源と言われていることです。

こうしたことを実践して学ぶことは、たいへん有意義だと考えています。

学校で普段工作に使っている木材は、ホワイトウツドの集成材でしたが、今回の取組みにより身近な山の木が、製材して板となり、それを加工して木工作したということとは、彼らにとつてたいへん貴重な経験になったと思います。今後は、木材を見た時に、山の立木を思い出してくれるのではないかと思います。



組織改編と人事異動がありました。現在の職員配置です。

参事
田中 忠
会計主任
丸山久美子

総務課

総務課長(兼)
田中 忠
会計係長(兼)
丸山久美子
指導係長
荒井 和恵
庶務係長
中沢千恵子
総務課
外山 佳代
総務課
割田有梨子(派)

業務課

業務課長
南都 寛
業務課長代理
尾淵 義輝
事業係長(兼)
南都 寛
事業係
関 真一
事業係
井澤 美晴(派)
計画係長
中山 尚士
計画係
河野 透
計画係
丸山 幸裕
計画係
長澤 正也
計画係
宮崎 則明
計画係
川久保 純
計画係
清水謙士郎
計画係
高柳 秀行
計画係
羽入田真亜久

利用事業課

利用事業課長
堀澤 正彦
利用事業課長代理
高橋 優
利用事業課
山口小百合
利用事業課
田子 怜奈(派)

(派)派遣職員

本 所

〒383-0061

中野市大字壁田938番地1
TEL 0269-38-0371(代)
FAX 0269-23-5350

利用事業課

〒389-2255

飯山市大字静間383番地14
TEL 0269-62-8111
FAX 0269-67-0120

編集後記

令和5年度末が近づいています。夏季事業は計画より若干良好だったと思われま。これから、冬季事業となりますが、雪は多くも少なくもなく、平均的な降雪となることを願っております。

